

国土形成計画シンポジウム in 高知

四国が一体となった地域づくり

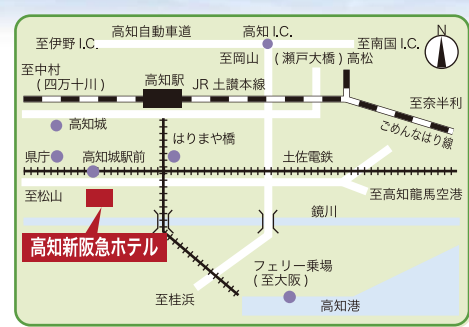
四国には、皆さんの気づかない魅力が溢れています。現在、国土形成計画の議論が行われていますが、いっしょに、四国が一体となった地域づくりについて考えてみませんか。



定員200名
入場無料

日時 平成19年3月23日(金)
13:30~16:00(開場 13:00)

会場 高知新阪急ホテル 3F 「花の間」
高知市本町4丁目2番50号



会場へは公共交通機関をご利用下さい。

基調講演



演題 「これからの国土づくりを考える ~夢の実現を支える国土整備を~」

講師 経済エッセイスト 秋岡 榮子氏

パネルディスカッション

テーマ 「四国が一体となった地域づくり」

- コーディネーター 遠山 仁氏 (高知新聞社論説副委員長)
- パネリスト(50音順) 秋岡 榮子氏 (経済エッセイスト) 梅原 利之氏 (四国経済連合会副会長) 中越 武義氏 (梶原町長) 那須 清吾氏 (高知工科大学教授)

主催 四国経済連合会 国土交通省四国地方整備局・四国運輸局
共催 四国圏プレ広域地方計画協議会 (徳島県 香川県 愛媛県 高知県 四国管区警察局 四国総合通信局 四国財務局 中国四国厚生局 中国四国農政局 四国森林管理局 四国経済産業局 四国地方整備局 四国運輸局 第五管区海上保安本部 第六管区海上保安本部 中国四国地方環境事務所 四国経済連合会 四国商工会議所連合会 徳島県市長会 徳島県町村会 香川県市長会 香川県町村会 愛媛県市長会 愛媛県町村会 高知県市長会 高知県町村会 大阪航空局 大阪管区気象台)
後援 高知新聞社

魅力ある未来の四国づくりを考える

国土形成計画シンポジウムin高知

四国が一体となった地域づくり

四国に住む私たちは、温暖な気候と豊かな自然、伝統、文化など四国の魅力を何気なく味わいながら暮らしてきました。しかし、少子高齢化時代に入った今、魅力ある四国がいつまでも続くとは限りません。今こそ四国に住む人が四国の魅力をきちんとお互いに共有して、全国や世界に誇りうるべきものとして訴えていかないと、四国の未来は明るいものとならないのではないのでしょうか。

現在、国土形成計画の策定に向けて議論が行われていますが、四国においても四国が一体となった地域づくりについて議論を行い、四国の魅力を活かした自立した地域づくりを目指してシンポジウムを開催します。ぜひ、ご参加ください。

基調講演 演題:「これからの国土づくりを考える～夢の実現を支える国土整備を～」

経済エッセイスト

秋岡 榮子氏

プロフィール

経済エッセイスト。生活経済、経済文化などのテーマを中心にテレビ・ラジオ出演、講演、シンポジウムのコーディネーター、コラム執筆など。平成17年1月には、自由民主党機関紙「自由民主」及び機関誌「りぶる」にて、小泉総理の新春座談会のコーディネーターを務める。現在のレギュラー番組・連載は、熊本日日新聞「論壇」担当、テレビ埼玉「埼玉ビジネスウォッチ」キャスター、ラジオ日経「中国株投資プログラジオ」パーソナリティ。

●お申込方法 下記の申込様式に必要事項をご記入のうえ、FAX又は郵送にてお申し込み下さい。
※定員になり次第受付を終了させていただきます。
(定員数に達した後にお申し込みをいただいた場合のみ、お断りの連絡をさせていただきます。)

●お申込期限 **平成19年3月15日(木) 必着**

●お申込・お問合せ先 国土交通省四国運輸局企画観光部交通企画課 濱田又は渡辺
〒760-0068 高松市松島町1-17-33
TEL (087) 835-6356 FAX (087) 835-6373

参加申込書

連絡者氏名	勤務先等名称
-------	--------

勤務先等住所・TEL・FAX

参加者氏名	勤務先等名称
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----



あす 魅力ある未来の四国づくりを考える 国土形成計画シンポジウム in 高知

四国には、日本の原風景ともいえる美しい自然があり、遍路とお接待に代表される豊かな歴史・文化や細やかな人情がある。こうした四国らしい魅力を大切に、活力ある四国づくりを考える大事な時が来た。「国土形成計画」の策定にあたり、今年の半ば以降には四国ブロックの広域地方計画策定作業を本格的に進めていくことになる。今こそ、住民が主役、行政が支援と

いう協働が求められている。そのためには、盛んなボランティア活動や道普請などの歴史ある地域コミュニティが重要となる。また、四国が一つに連携し、あらゆる力を合わせての自立する四国づくりが必要である。そこにはじめて、魅力的な四国の未来が見えてくる。その一助となるシンポジウムが3月23日、高知市の高知新阪急ホテルで開催された。

四国が一体となった 地域づくり

パネルディスカッション
(敬称略)

コーディネーター

遠山 仁

高知新聞社論説副委員長

▼パネリスト(50音順)

秋岡 榮子

経済エッセイスト

梅原 利之

四国経済連合会副会長

中越 武義

橋原町長

那須 清吾

高知工科大学教授

四国の資源とは

遠山◆自立に向けて、四国が持っている資源を生かすためには、どういう課題があるのか。

秋岡◆四国の魅力は、みんながまだ四国の魅力を知らないということ。いろんな意味で四国がアピールする可能性は、まだまだたくさんある。

梅原◆四国を見ると、21世紀型観光の宝物が詰まっている。周りが海で大きな川があり、2000m級の山がある。おいしい食べ物があり、歴史は古く文化度も高い。日本の

縮図のような四国。これほどに売りに出しているのが最大の課題。
那須◆四国は資源の見直しが必要。自然、農産物、そして人。特に中山間地域では、それが光って自立しているような核をつくるのが重要。地域がビジョンを持っている。



那須 清吾さん

自立への さまざまな歩

遠山◆次のテーマは、自立に向けて何をやるのか。国土審議会自立地域社会専門委員会の秋岡さんからお願いしたい。

秋岡◆委員会の主な検討内容は、どんな社会を誰がどうやってつくるのか。こぼれていく集落はどうするか。キーワードは、各地域独自の魅力を生かして、個人満足度の向上、その地域経営の主体に、「新しい公」という概念が出てくる。資金問題で、地元のお金が地元で集まり回っていき循環システムができないか。



秋岡 榮子さん

基調講演 秋岡 榮子氏

経済エッセイスト
(株)日本長期信用銀行調査部、(株)長銀総合研究所を経て、個人事務所設立。経済文化などのテーマを中心にテレビ・ラジオ出演、講演、コラム執筆などを行い、平成17年には自由民主党機関紙「自由民主」および機関誌「りぶる」にて、小泉総理の新春座談会のコーディネーターを務める。現在は、国土交通省の独立行政法人評価委員会日本高速道路保有・債務返済機構分科委員、国土審議会地域振興専門部会委員、新四国創造研究会委員、農林水産省の食料農業農村政策審議会専門委員などを務めている。



これからの国土づくりを考える ～夢の実現を支える国土整備を～

若い人が、この国で頑張っていきたいという夢が持てる国づくり。これが私たち世代の責任ではないか。現在、新四国創造研究会に参加しているが、四国で世界一といわれる企業が12社、日本一の企業が87社。これらの企業が、四国内や県内で、連携をして新しい付加価値のある産業を作り出すのが大事。また、自分たちの文化を守る、個性を守るというのも大事。お国言葉でお子さんを育てていただきたい。夢は、誰かが一瞬頑張ったから実現できるものではない。多くの先人の夢と努力があり、環境が整って実現する。道路を開く、鉄道を開く、橋を架けるという国土整備が、私たちの夢を実現するための大変重要な環境整備ではないか。誰もが「ムダな道路であればいい」と思っている。大事なことは、どういう観点でムダかどうかということ。社会を担う若者たちの夢を実現させるための先行投資なのか、私たちの身勝手なムダ使いなのかを、きちんと議論しておくのが、私たち世代の責任ではないか。地元の人たちが安全で安心して暮らせる、若い人たちが将来に希望を持って生きていける、それを考えた上での国家の収支バランスだと思ふ。夢の実現を支えるということも、国土整備の効果の中に考えてほしい。「インターネット時代に今更道路なんか」という話もあるが、インターネットだけでは夢はかなわない。やはり人と出会うことが大切。自分が行動しているんだことを経験することが非常に大事な時代

になってきた。四国は、高速道路もまだ繋がっていない。未整備の環境整備が多い中で、可能性を広げる国づくり、基盤整備ができるのだろうかということを考えていた。一番の課題は、これからの地域づくりを「誰がどうやってやるんだ」ということ。行政でやっていたものが、行政だけではできない。それをどんなシステムで、どんな立場の人たちに替わっていくのか。それを、今回の国土形成計画では、「新しい公」という言葉で表現している。「新しい公」の形は、それぞれの地域の風土や文化によって違う。四国は、温かいお接待の文化があり、見返りを期待するのではなく手を差し伸べるという文化が育ってきた。四国から日本をリードするよう「新しい公」のスタイルが出てくるのではないかと期待している。「見る時代」ではなく「自らやる時代」になったと思う。「新しい公」で行政ができないところを補う。「見る」国土計画から「私がやる」国土計画に変わっていく。また、今は女性の時代、高知のはちきんの女性が、四国の国づくりを引っ張っていくのではないかと期待している。これからどんどん日本はグローバル化し、いろんな文化が入ってくるが、四国だけは「日本らしい日本」という良さをそのまま残してほしい。それが四国の最大の魅力になるのではないかと。やっぱり高知は面白い、そう思えるような元気で魅力のある国土づくり、県づくりをぜひやっていただきたい。

中越◆四国全体で考えても山の比率は68・9%。山の良さを生かすことが必要。長期滞在のために健康、環境、教育をしつかり見つけ、健全な子



中越 武義さん

梅原◆隣とは競争するものだが、足の引つ張り合いをせず、良い所を競い合って連携していくことが大事。四国は全国に冠する第一産業の地域であり、これをどう生かすかも重要。もう一つは、団塊の世代をどう取り込むか。四経連では、ロングステイ・アイランド四国を目標そうと考えている。また、日本の心、日本人のよりどころとして、88万所遍路路を世界にアピールすべき。



梅原 利之さん

遠山◆広域地方計画に、どういふものを盛り込んでいけばよいか。

秋岡◆四国は一番の魅力は、「ニッポン・オブ・ザ・ニッポン」。四国人が丸とされるキーワードをつくり、計画に入れたらよいのでは。

国土形成計画に 必要な四国の声

遠山◆格差は、経済市場だけで埋まらない。四国で暮らす人間が、どれだけ満足できるかが大きなポイント。もう一つは、その魅力を知り、一つの

どもたちを育てていくこと。自分達の強み、弱みを見極め、自分達の町がどのようなになりたいかを、みんなで考える。広くネットワークで結び生かしていかなければ、独自性だけでは生きていけない。

秋岡◆計画に入れたかったのは、高速道路「四国8」のネットワークの整備促進。もう一つは、公共交通、特に在来線から新幹線に直接乗り入れできるフリーゲージトレインの整備。また、元々ボランティアが盛んな四国は、住民参加の地域づくりで、「新たな公」のモデルとなるべき。

梅原◆計画に入れたかったのは、高速道路「四国8」のネットワークの整備促進。もう一つは、公共交通、特に在来線から新幹線に直接乗り入れできるフリーゲージトレインの整備。また、元々ボランティアが盛んな四国は、住民参加の地域づくりで、「新たな公」のモデルとなるべき。

れば「美しい国、日本」はつくれる。秋岡◆8のキーワードと情報ネットワークが最低限のインフラ整備。四国のように広い人口が少ないところは、ぜひたくではなく基本的な資産。これから人口も減少し、財政も悪化していくという意味で四国は先進地域。その先進地域ビジョンを見せ、格差を明確化する。国民が等しく受けるべき安全安心を、等しく受けているのか。高知では救急病院に行くのに、全国平均の倍くらい時間がかかる。東京で移動時間を数分縮めようとする投資と四国で人の命を守るための投資、一体どちらが大事なんだということ。堂々と言う必要がある。四国らしい整備方法も考え、説得力を持つことが大事。

遠山◆格差は、経済市場だけで埋まらない。四国で暮らす人間が、どれだけ満足できるかが大きなポイント。もう一つは、その魅力を知り、一つの



遠山 仁さん

広告